



報告

0225

起案紙第一號

明治五年一月一日起案  
抄案者印  
一月三日發行  
發行印  
抄案者印

大臣 **陸奥**

次官 參事官

副官

軍務局長

勳

司員

勳

勳

明治五年一月十三日

海軍大臣

陸奥

出般員選出に關し、海軍大臣に提出せしむるに

及、陸奥、西船長、提出せしむるに關し、海軍大臣

發送  
房第  
七  
二  
號

每頁

1-10

0226

况非老要飲即紙一箇光同

教管、供養也、稱子孫、計、壽、心

有下其之

子孫傳好

了

0227

伊吹艦長海軍大佐關野謙吉報告要領

軍艦伊吹、是軍港ニ在リ、航海準備ヲ整ヘ

明治四十四年十一月九日号祭、同月十日佐世保着、

炭水軍需品搭載、同月十日佐世保軍港ニ在リ

博恭王殿下乗艦アリセラル、同日午後三時

五分抜錨、暹羅國ニ向テ、同月十九日香港着

花崎



「千カ」島之向ハシム、曰三時二分溜南河

西水道 十三里 投錨セリ

錨地ヲ陸岸ヲ望メ、溜南河ノ流

域ハ大平原ヲ為シテ、一小丘モ目標多シ標高

ヲ有スモ、十ノ位モ大洋ニハセカヲ疑ハシム

唯蓬ノ一連ノ樹孰ト海岸ニ立立ス

奥棚ヲ認ズ

本照

0230

投錨後一時間ニ水先峯内来船ニ進入  
 港時到打合ヲ为ス、曰人一言ニ流ハ船后付  
 二毛事又外國軍船来着キト、即チ本船  
 ハ急列航ノ事ニ着キ、先ニ引リ  
 午後四時方是處島ヲ航スクリツテ  
 河口ヲ出テ来リ、本船ノ附近ニ投錨シ  
 博恭王殿下ニ對シテ一層ノ自給砲ヲ

花崎

0231





スクリップの種を云ふ

年方九時十五分 博多港下 伊吹中込船

從<sup>レ</sup>日兼航、本隊隨行下、從<sup>レ</sup>日兼<sup>旗</sup>ヲ

掲<sup>ケ</sup>、伊吹中込船、臨<sup>レ</sup>日兼<sup>旗</sup>、本隊隨行下

中込<sup>上</sup>主上<sup>意</sup>、日兼<sup>旗</sup>ヲ<sup>掲</sup>、從<sup>レ</sup>日兼

伊吹中込船、臨<sup>レ</sup>日兼<sup>旗</sup>、本隊隨行下

伊吹

0233

海軍

午前十時四分 敵艦 掃蕩 拔飾、盤旋

府、向、伊吹、終結、及、全、砲、行、了、畢

砲、ス、リ、フ、<sup>レ</sup> 伊吹、<sup>レ</sup> 仰、滿、砲、飾、及、二十、五、分、

全、砲、行、了、<sup>レ</sup> 向、十、時、滿、砲、飾、了、撤、ス

午前十時五分 <sup>伊吹</sup> 敵艦 掃蕩 及、全、砲、行、了、

向、十、時、滿、砲、飾、了、<sup>レ</sup> 撤、ス、<sup>レ</sup> 向、十、時、滿、砲、飾、了、

二十、分、<sup>レ</sup> 敵艦 掃蕩、<sup>レ</sup> マ、<sup>レ</sup> 十、分、<sup>レ</sup> 瑞、典、<sup>レ</sup> 皇、族、<sup>レ</sup> 及、<sup>レ</sup> 英

在崎

0234

國は旗幟ヲ併揚シ續テ英艦アルトリック入港、

翌云友ハ爾艦ヲ「ロ」色旗幟ヲ揚テ入港、曰ク

瑞典、英國、露艦各一各皇<sup>白王</sup>旗、是艦ニテ盤谷府ニ付

ハ等シ、以上右色旗一諸著艦ニ隨シ伊吹ハ例ニ依リ

滿艦飾ハ皇旗ニ依リ

十一月三十日遊艦「スクリン」初夜ヲ戴冠式ニ<sup>付</sup>圖

俄艦ハ艾通遊艦ヲ擧ゲ十一月廿一日向テ四日間毎

花時

十月二十五日  
の三十一日迄  
の按察使  
上り  
盤谷内なる  
鳳我官氏  
ノ重名ヲ  
百名名ヲ  
吹之招給セリ

午の八時日没ニテ滿祿師、日没時ヨリ正午ニテ

海軍

電燈籠飾ヲ施行シ、尚ホ十二月廿四午前二十時

後ニ至リ百寮ト改メ、皇乳師ヲ養ハル旨ノ復達

陸ニ揚セリ、依テ右ノ如ク施行セリ

十二月廿九日 博茶王殿下御下侍等一連御定ニ付、伊吹

十時ヨリ日没ニテ、伊吹滿祿師ヲ以テ在泊ノ趣

是程ノタリトシ、英社アリ、其後ハ一日ヨリ、

花巻

0236

亦々伊吹之儀に備航飾ヲ為ス

殿下ニ午前十時五分迄之清業航午後零時十分

盤谷出航航、午前三時ハク十山ニ於テ定行也

航、伊吹ノ水取航ニ伊吹ノ清業航アリ也(本航際)

是、英、露ノ各航ニ清業航通過ノ際悉ク干渉

ノ起ル可クハ是航ニ更ニ殿下伊吹ノ清業航

ノ際伊吹ノ儀ニ二十分ハ起ル可クハ

花房節

伊吹、海軍艦隊、海軍艦隊、海軍艦隊

三月七日午後四時、伊吹、海軍艦隊、海軍艦隊

揚子江、海軍艦隊、海軍艦隊

十二月十日、伊吹、海軍艦隊、海軍艦隊

伊吹、海軍艦隊、海軍艦隊

十二月十九日、香港、海軍艦隊、海軍艦隊

香港出港、十二月十八日、海軍艦隊、海軍艦隊

着、揚子江、海軍艦隊、海軍艦隊

日二時五分 敵下迄航アモモレタリ

本航海中本艦船体損傷甚異状ナシ風集負ノ

軍紀風紀及衛生状態<sup>一般</sup>佳良ナリシヲ認ム

航海~~要~~一覽表及航跡圖、碇泊圖等列紙

ノ如シ

花袋

0239

軍艦伊吹暹羅國瓜達航海一覽表

地名	哩數	航海日數 日時分	碇泊日數 日時分	着月日	発月日
暑	四、五、七、〇	二、二、二	三、四、二、六	十月十日	十月九日
依世保	一、一、五、六、〇	四、八、五、〇	二、一、五、〇	十月九日	十月十日
香港	一、五、七、六、九	六、六、七	三、〇、四、〇	十月九日	十月十日
般松	一、五、九、五、〇	八、三、九	二、六、三、三	十月九日	十月十日
香港	一、五、九、四、一	六、三、五	二、六、三、三	十月九日	十月十日
横濱	六、三、七、九、〇	三、三、二	二、〇、九、九	十月九日	十月十日
計					



定船長海軍大佐山口鏡報告要領

暹羅派遣任務中航海概況

四十四年十一月九日佐世保軍港發香港南廈門

及汕頭ヲ經テ今月十七日香港着此ノ航海中天氣

概子晴朗海上亦靜穩ニシテ南下スルニ從ヒ溫度漸

次上昇シ香港ニ於テハ氣溫(華氏)七十六度トナリ夏服ヲ

花前紙

著用ス全月十八日炭水搭載翌十九日伊吹入港ス

十月二十一日伊吹ニ隨ヒ香港發盤谷ニ向フ天候

概ネ良好ナリシモ風力稍強ク海上荒波ヲ生ジ

タルコト二三回アリ然レドモ多クハ艦尾ヨリ追波

ヲ受ケタルヲ以テ航海ニ困難ヲ感セス二十七日午後

命列外ニ出デハヤン島泊地ニ到リ打電ノ

後湄南河口門洲外碇泊中ノ伊吹ノ傍ニ至リ投錨

海軍

ス本航海中温度日ヲ追フテ益々上日并ニ甲板價

~~華~~八十七度機関室温度華~~成~~百二十八度ヲ示

スニ至レリ。

朝博恭王

十一月二十八日朝~~使~~見~~官~~殿下御乗艦アラセラル御

乗艦後直チニ拔錨湄南河ヲ溯航シ午後盤谷

府著、殿下御退艦暹羅國王室ノ「ヤット」ニアロサ

レ御上陸遊ハサル本艦ハ錨場ヲ変へ艦首ヲ河上

ニシテ程ノ若尾ヲ繋維ス

北緯

0243

河口に繋維地、至る間<sup>海</sup>回<sup>折</sup>餘曲折シ  
 航程約二十五里、河幅平均五百呎、多少  
 潮流<sup>上</sup>ト<sup>下</sup>ニ航行上<sup>ニ</sup>困難ヲ感<sup>ハセ</sup>ズカリキ<sup>ル</sup>  
 船客港、湄南河中、約六里ノ間<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>  
 一般船舶ノ滿地ト<sup>モ</sup>是<sup>レ</sup>ヨリ上流約  
 二里ノ間<sup>ヲ</sup>軍港ト<sup>モ</sup>爲<sup>セ</sup>リ  
 無數ノ浮家屋岸ニ沿<sup>ヒ</sup>又無數ノ小

棧橋アリテ河幅ヲ狭ハメ小形船舶ノ外ハ  
 河ノ中央ニ船舶ヲ繋泊シテモ又市内  
 〃多數ノ小運河アリモ河ニ橋梁ノ  
 設ケルナシ多クハ小船ヲ以テ交通ヲ為ス  
 港内ニ入港ノ船舶ハ長五百呎位ヲ以テ安  
 全ナル最大限トナスト云フ、如程港内中  
 多數ノ船舶出入セシモ船幅ニ比シテ船長

0245

短ク、本船ヲ長キヤハ強ト之ヲ認メ  
ガリン

沿南河ト碇居前ト一國係

御上御下  
信  
其ハ別國也

及船白  
定敷

0246

海軍

千向ケテ艦ノ首尾ヲ繫索維ホ

十二月一日ヨリ全九日ニ至ル迄暹羅國王陛下戴

冠式ニ関スル儀礼アリ

本艦ハ暹羅國軍艦「マーチャクリ」艦長ヨリノ通告ニ基キ

十二月一日ヨリ四日マテ毎日晝間滿艦飾夜間電

燈艦飾ヲ行ヒ又二日午前十時四十六分百一發

皇禮砲ヲ行フ

北時誌

0247

在留・秋官氏

海軍

十二月六日(重) ~~本~~立 在任邦人ヲ本艦ニ招待シ茶

話會ヲ催シ八日石炭ヲ搭載ス火大熱灼クが如シ

全九日午前 殿下御乗艦アラセラレ直チニ出港午後

「バクナム」錨地ニ投錨、殿下御退艦、伊吹ニ御乗艦

ラセラル翌十日朝「バクナム」錨地出港門洲外泊地ニ

到リ伊吹ノ傍ニ碇泊ス正午伊吹本邦ニ向ケ出港ス。

全十一日暹羅國海軍將校及兵學校生徒合計三十

0248

8



九名見學ノ爲來艦夕刻退艦本艦ハ即時

出港、香港ニ向フ、本航海中西貢ノ沖合ニ達スル

迄ハ天氣概子良好ニシテ海上モ亦比較的平穩ナ

リシモ其後北東風漸次強烈ノ度ヲ加ヘ加之驟雨

頻々トシテ來襲シ遂ニ狂瀾怒濤ヲ艦首ヨリ受ケ

航行困難トナリシヲ以テ全十五日安南東岸ノホ

ンコトハ  
湾ニ入リテ避泊シ十八日ニ至リ天候稍々恢復

花崎

セルヲ以テ全灣ヲ發ス、二十日夕刻ヨリ天候復ビ險

悪トナリ逆風ト鬪ヒ荒波ヲ冒シ<sup>冒</sup>二十一日朝香港ニ

著シ伊吹ニ會ス、當日午后伊吹横須加貝ニ向ケ出港

ス、二十二日炭水ヲ搭載ス、二十四日午ノ前香港ヲ發

シ吳軍港ニ向フ臺灣海峡ノ強猛ナル北東風ヲ避ケ

ガ為メ支那沿岸ニ近ク北上シ幸ニ極メテ平穩ニ海峡

ヲ通過シ得タリシモ二十五日夕刻海壇島附近ニ到リ

北緯

頃ヨリ強烈ナル北東風ノ襲フ所トナリ航行皮ル困難ト

ナリシヲ以テ二十六日午前三都澳ニ入港ス二十八日ニ至リ

天候ノ稍々恢復セルヲ得見出港セシモ海上ノ模様依然

トシテ陰悪ナルガ爲メ午后南関港ニ入ル 三十一日

午後南関港ヲ發ス 四十五年一月一日正午頃ヨリ

北風強吹シ波浪次第ニ高ヨリ今日夕刻ヨリ暴

風トナリ艦ノ傾斜數次五十度ヲ超ユ、三日午前ニ

至リ天候静穩ニ復シ香港出發以來始メテ太

陽ノ光ニ浴スルヲ得タリ、午後十時安下ノ庄ニ假泊

シ翌四日午前吳軍港ニ歸著ス、此航程五千

八百二十餘~~海~~哩、要セシ日數五十七日

航路回別  
回別

本任務中軍紀風紀ハ常ニ嚴肅ニ維持セラレ

又航海中ハ數々荒天ニ遭遇シ艦ノ輾轉ノ動搖

激甚ナリシニモ拘ハラズ船體兵器及櫂関ニ

花崎

0252

些

故障 ~~損害~~ ~~ナク日~~

海軍

經由各地多クハ不健康地ニシテ炎暑酷烈十

リシモ ~~衛生~~ ~~會計~~ ~~給與~~ ~~狀況~~ 業極

ナテ良好キリシ表ニ本任務ニ終ルコトヲ得タル

トニ乗員一同ガ各其ノ職責ニ應ジ能ク其ノ本分

又 ~~盤~~ ~~行~~ ~~結果~~ ~~特~~ ~~遲~~ ~~羅~~ ~~國~~ ~~於~~ ~~テ~~ ~~ハ~~ ~~交~~

通著シク不便ナル洲外ニ碇泊中ノ軍艦伊吹ト

0253

本艦トノ間ニ於ケル通信連絡常ニ最モ確實ニ

ハ西船ノ無線電信機ニ由リ

維持セラレ且ツ時々門洲外ニ在ル暹羅國軍艦

「スクリム」ト海軍者間ノ要急通信及露艦「アウ

ロラ」ト露國公使館トノ必要通信等ガ本艦

ト伊吹トヨリ此ノ遺憾ナク其ノ用ヲ辨シタル

精銳ニ我無線電信機優劣ナル電信手ノ技

ハ外ナラザル赤字ノ餘アリ

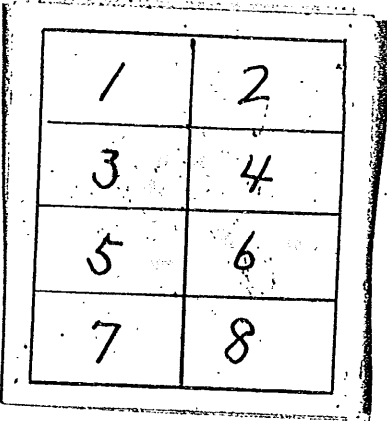
花時

0254

盤谷ニ於テハ時々乗員ニ上陸ヲ許シタリ一同ノ  
 整肅ナル態度ト懇篤ナル舉措トハ能ク内外  
 人ノ稱賛ヲ博シ特ニ暹羅國人一般ニ頗ル好  
 感ヲ惹起セシメ日暹兩國今後ノ關係上一  
 大裨益ヲ與ヘタルハ深ク信スル所ナリ  
 終リニ臨ミ經由各地在留ノ本邦人ヨリハ熱誠ナ  
 ル歡待ヲ受ケタルコトヲ附記ス

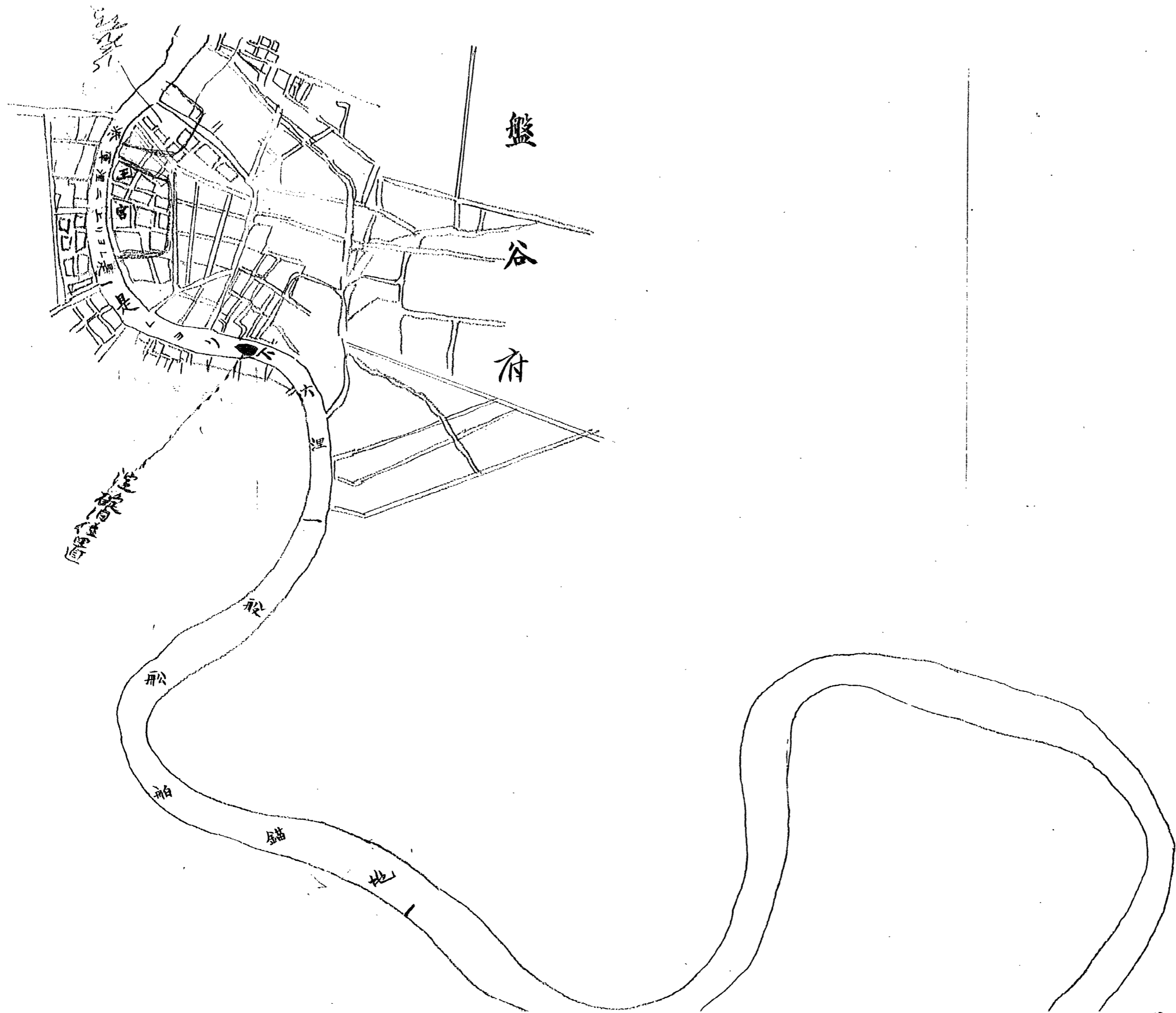
花崎

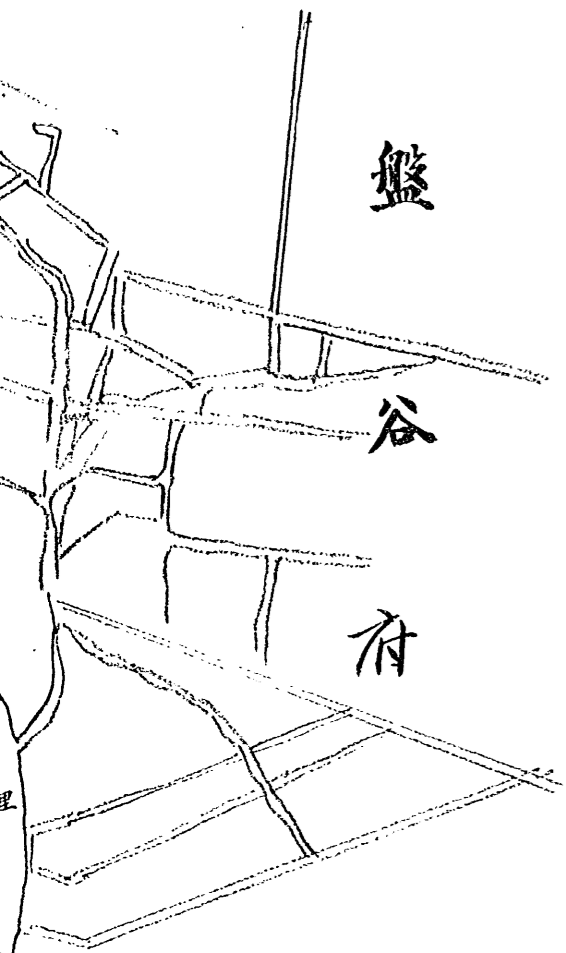
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



0256  
0257  
0258  
0259  
0260  
0261  
0262  
0263

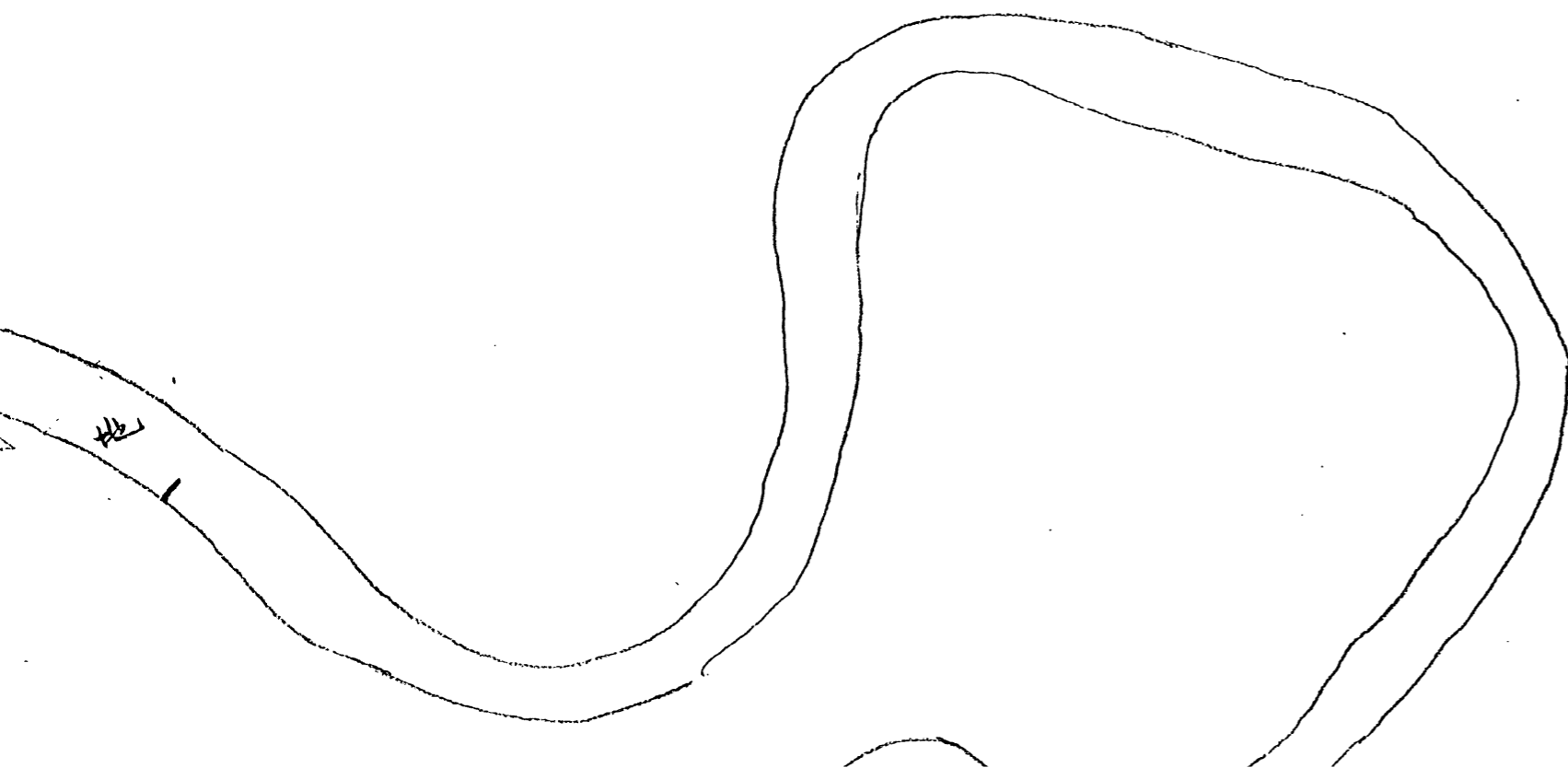




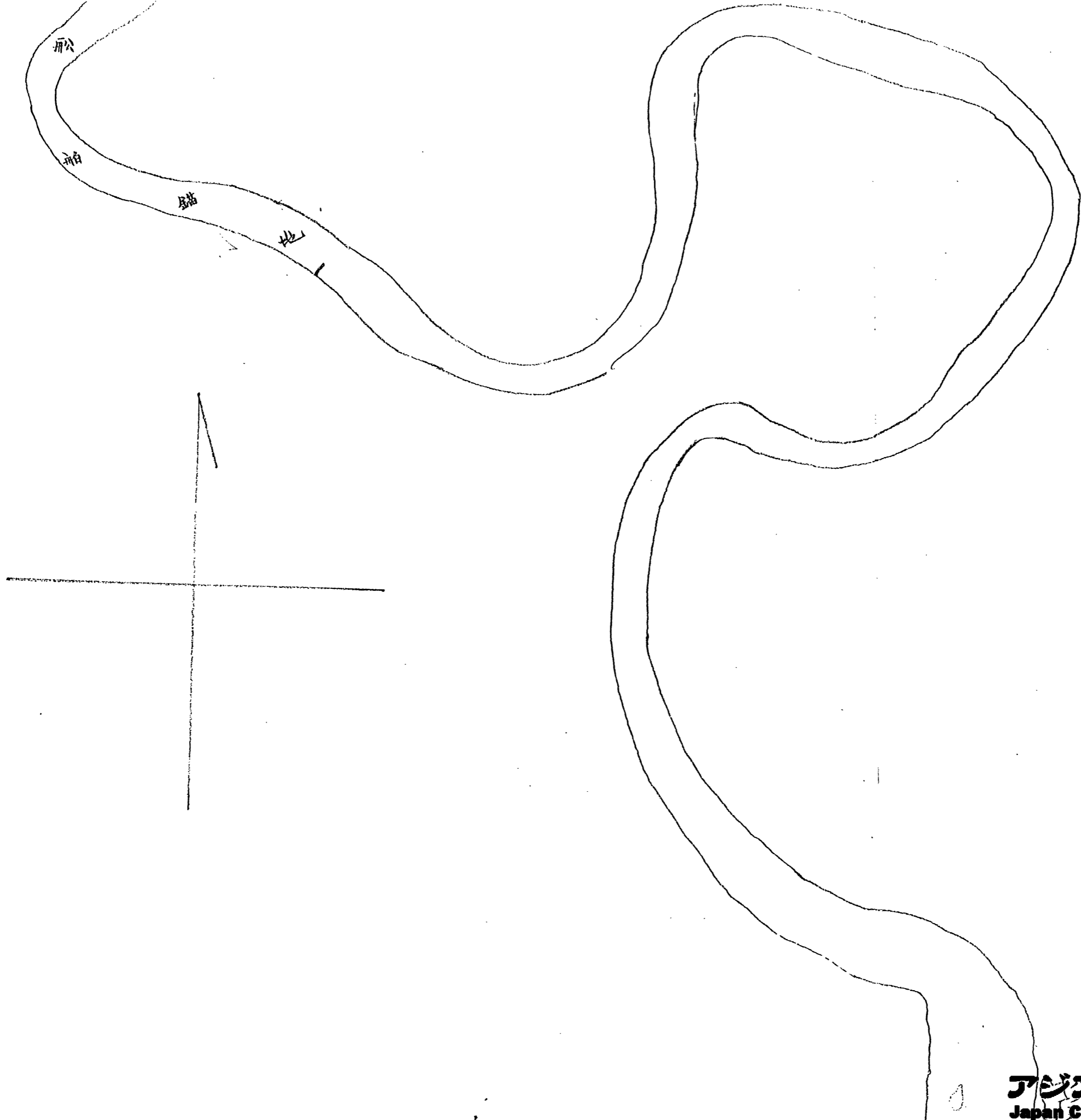
盤

谷

府



地

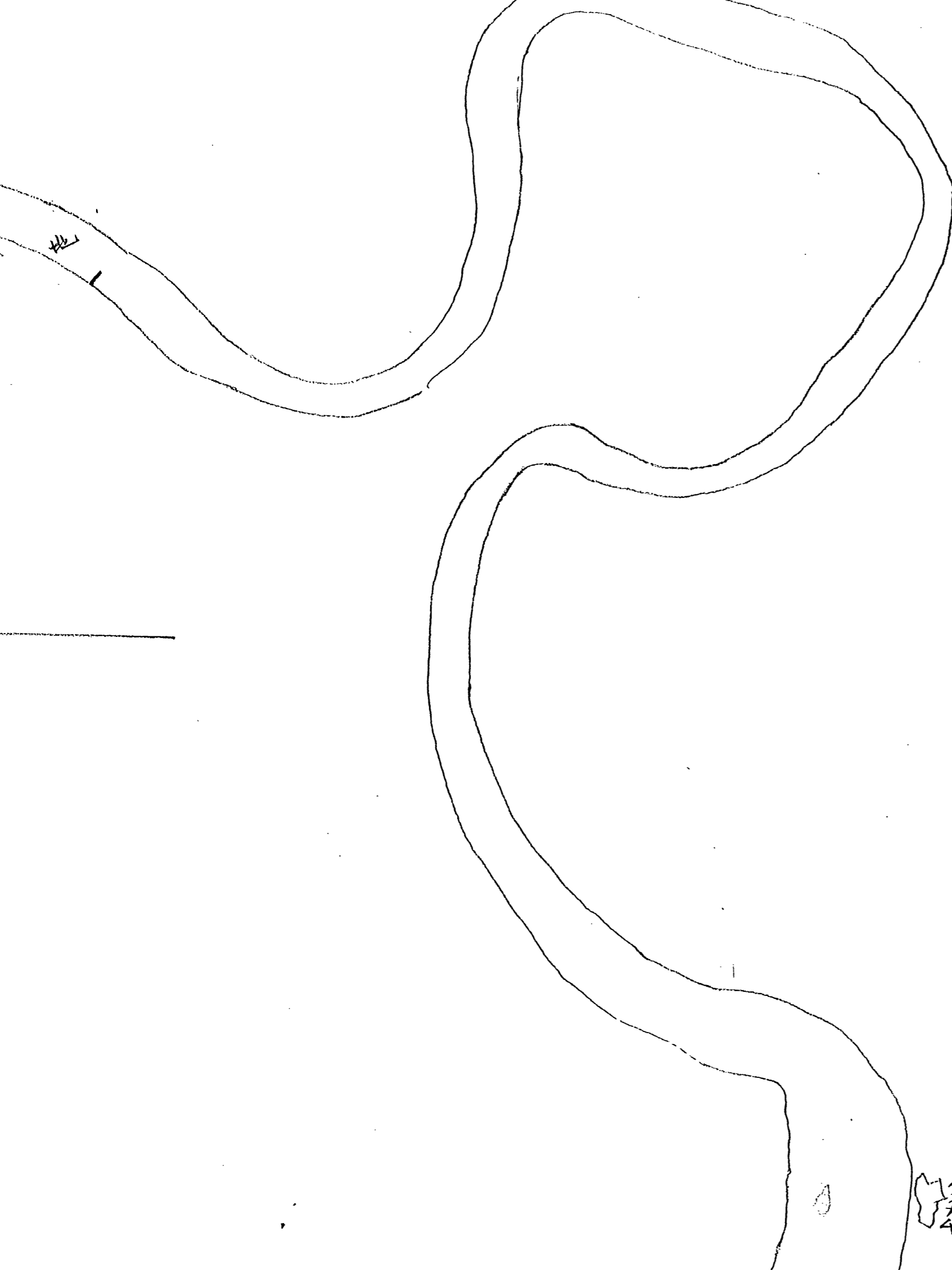


船

船

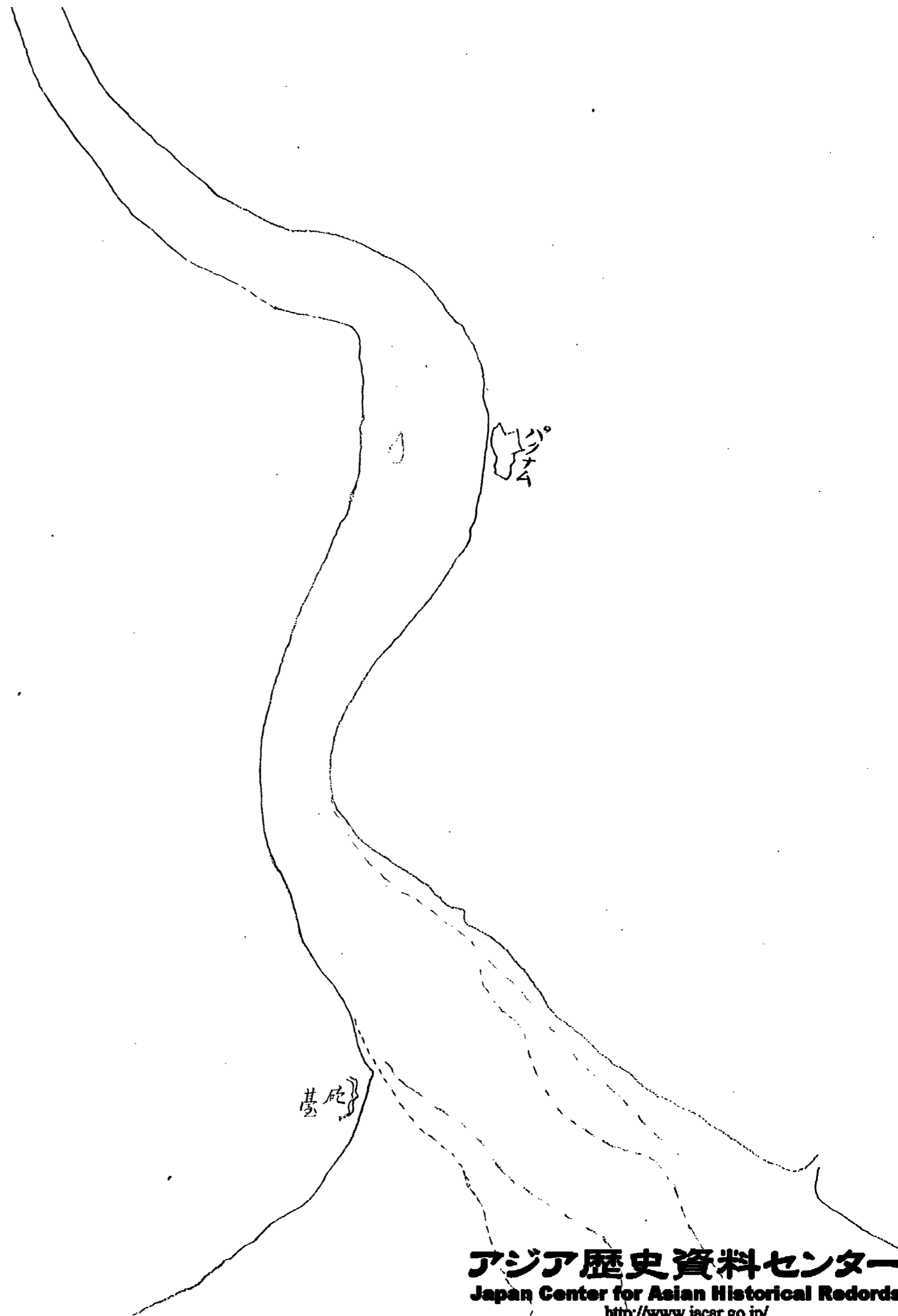
踏

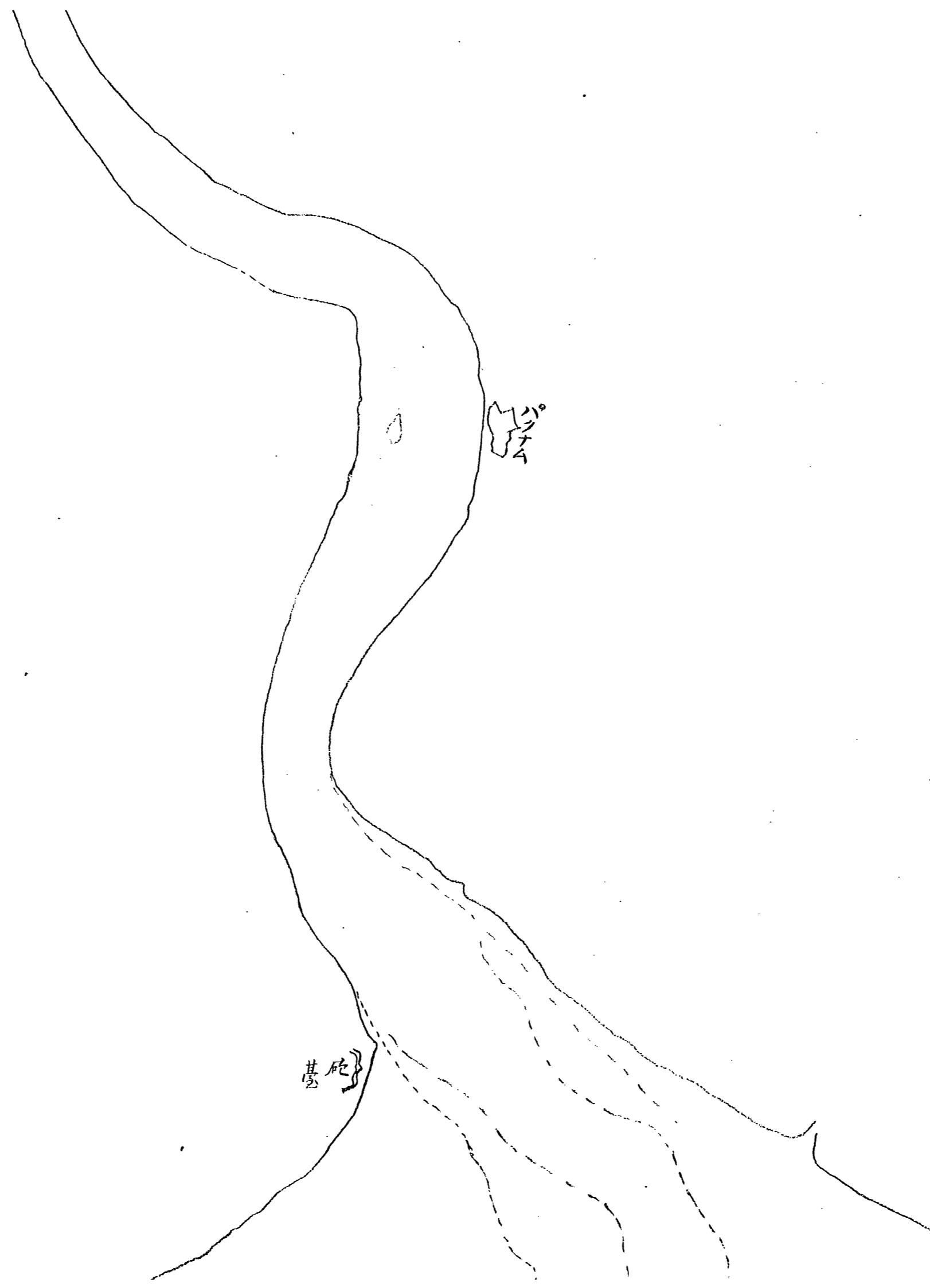
地



山

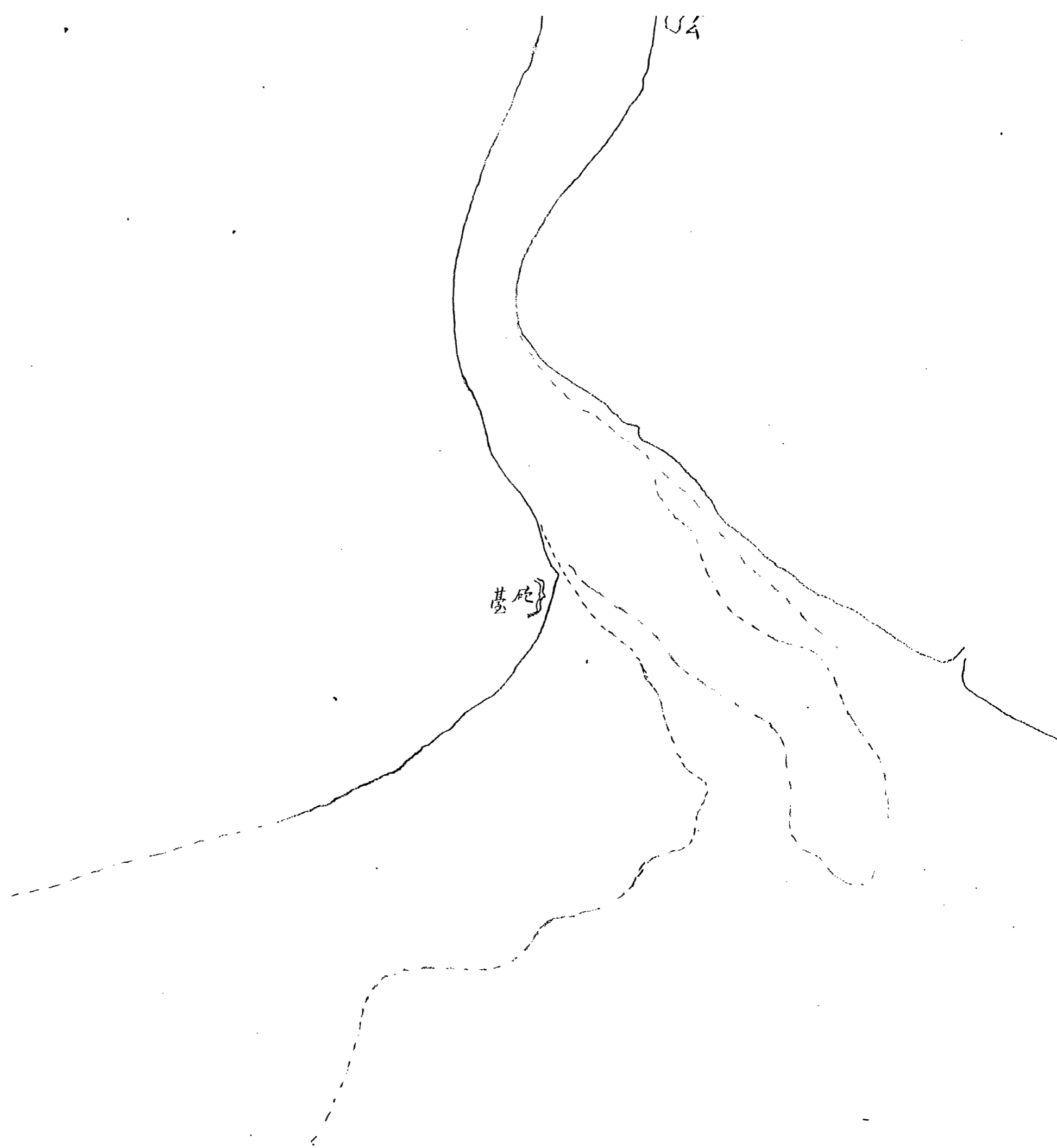
山

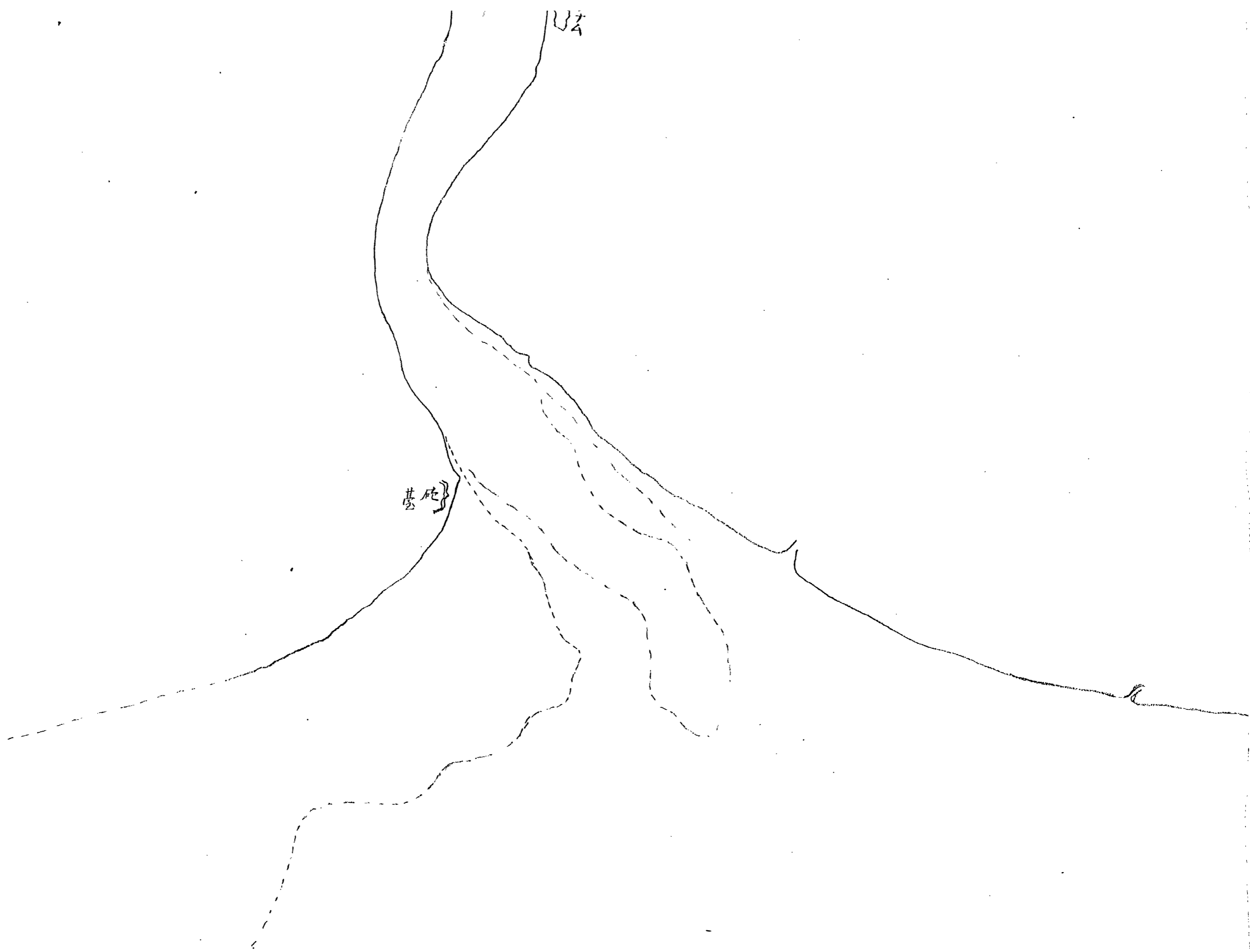




基

川合





基尾

Uz



0264

司令長官

淀機密第五號

參謀長

參謀

副官

警備

明治四十五年一月八日

電

一月五日進達

明治四十五年一月四日於吳

淀艦長山口銳

海軍大臣男爵齋藤實殿

暹羅派遣任務中ノ航海概況

十四年十一月九日佐世保軍港發香港ニ向テ廈門及汕頭ヲ

經テ左月十七日香港著此ノ航海中天氣概ニ晴朗

海上亦靜穩ニシテ南下スルニ從ヒ漸次上昇シ香港ニ

於テ氣温華氏(華)六度トナリ夏服ヲ著用ス左月

十八日接水塔戴聖十九日伊吹入港ス

第一班 第二班 伊吹ニ隨ヒ香港發盤谷ニ向テ天氣概ニ良

軍令

軍務局

五

第一班

第二班

五

115

良

心

=

184

ノ

15

15

至

四年一月四日  
山口浪形長  
尾鎮守府副官殿

本報告は、本館南開館破泊中  
無線電信と割電有之、又、ソニ付至  
急進邊方、取計り、増設

(他)

0265

好ナリシモ風力稍々強ク海上荒波ヲ生ジタルコト二三回  
アリ然レモ多クハ艦尾ヨリ追波ヲ受ケタルヲ以テ航海ニ困  
難ヲ感セズ 二十七日午後依命列外ニ出ヅルニヤンレ島  
泊地ニ到リ打電シ後湄南河口門洲外碇泊中ノ停吹  
ノ傍ニ至リ投錨ス 本航海中温度日ヲ追フテ益々上昇  
シ甲板温度華氏ハ十七度 機室温度華氏百二十八度ラ  
示スニ至レリ

十月二十八日朝 伏見宮殿下 御乗艦アラセラル 御乗艦後  
直々ニ板錨湄南河ヲ溯航シ午後艦石府着 殿下御退  
艦暹羅國王室ノヤツトニ召サレ御上陸遊ハサル本艦ハ錨  
場ヲ変ヘ艦首ヲ河上ニ向ケテ艦ノ首尾ヲ繋維ス  
十二月一日ヨリ左九日ニ至ル迄暹羅國王陛下戴冠式  
暹羅國軍艦「マーチヤス」艦長ヨリノ通告書ヲキ十二月一日

ヨリ四日マテ毎日晝間満艦飾夜間電燈艦飾ヲ行  
ヒ又三日午前十時甲六令百一發ノ皇禮砲ヲ行フ  
十一月六日重ガケタル在住邦人ヲ本艦ニ招待シ茶話會ヲ  
催シ八日石炭ヲ搭載ス炎熱灼クガ如シ  
左九日午前 殿下御乗艦アラセラレ直ニ出港午後  
ハクナム錨地ニ投錨 殿下御退艦伊吹ニ御乗艦アラ  
セラレ翌十日朝ハクナム錨地出港 阿洲外泊地ニ到リ  
伊吹ノ傍ニ碇泊ス正午伊吹本邦ニ向ケ出港ス  
左十一日暹羅國海軍將校及兵學校生徒合計三十九  
名見學ノ為ノ來艦夕刻退艦本艦ニ即時出港香  
港ニ向フ本航海中西貢ノ沖合ニ達スルマデハ天氣概不  
良好ニシテ海上ニ亦比較的平穩ナリシモ其後北東風漸  
次強烈ノ度ヲ加ヘ加之驟雨頻々トシテ來襲シ遂ニ狂瀾

怒濤ヲ艦首ヨリ受テ航行困難トナリシヲ以テ左十五日安  
南東岸「ホシコハ」灣ニ入りテ避泊シ十八日ニ至リ天候稍々  
恢復セルヲ以テ左灣ヲ發ス、二十日夕刻ヨリ天候復ヒ險  
惡トナリ逆風ト闘。荒波ヲ冒シ二十日朝香港ニ著シ伊  
吹ニ會ス、當日午後伊吹横須賀ニ向テ出港ス、二十二日  
伊吹ヲ搭載ス、二十四日午前香港ヲ發シ吳淞港ニ向テ  
聖灣海峡ノ強猛ナル北東風ヲ避ケルガ為メ支那沿岸ニ  
近ラ北上シ幸ニ極メテ平穩ニ海峡ヲ通過シ得タリシモ二十  
五日夕刻海壇島附近ニ到リシ頃ヨリ強烈ナル北東風ノ襲  
フ處トナリ航行頗ル困難トナリシヲ以テ二十六日午前三都  
澳ニ入港ス、二十七日ニ至リ天候ノ稍々恢復セルヲ見出港セ  
シモ海上ノ模様依然トシテ險惡ナルガ為メ午後南關港  
ニ入ル、二十日午後南關港ヲ發ス、四十五年一月一日迄年

0268

頃ヨリ北風強吹シ波浪次第高マリ全日夕刻ヨリ暑  
風トナリ艦ノ傾斜數次五十度ヲ超ス、三日午前ニ至リ  
天候靜穩ニ復シ香港出發以來始メテ太陽ノ光ニ浴  
スルヲ得タリ午後十時安下ノ庄ニ假泊シ翌四日午前  
吳淞港ニ歸著ス此航程五千八百三十海里要セシ日數五十七日  
水任務中軍紀風紀ハ常ニ嚴肅ニ維持セラレ又航海中  
ハ數々荒天ニ遭遇シ艦ノ輾轉動搖激甚ナリシニモ拘ハ  
ラス船體兵器及機件ニツノ故障ヲ生ジ若クハ損害ヲ  
蒙リタルコトナク且ツ經由各地多クハ不健康地ニシテ炎  
暑酷烈ナリシモ醫務衛生並ニ會計結算ノ狀況共ニ極  
メテ良好ニシテ爰ニ水任務ヲ終ラスルコトヲ得タルハ一  
葉負一同ガ各其ノ職責ニ應ジ能ク其ノ水各ヲ盡シタル  
結果ナリト認め特ニ暹羅國ニ於テハ交通著シク不便ナ

ル門洲外之碇泊中ノ軍艦伊吹ト本艦トノ間ニ於ケル通信  
連絡常ニ最モ確實ニ維持セラレ且ツ時々門洲外ニ在ル  
暹國軍艦ヲスクリフプロト海軍者間ノ要急通信及露艦  
<sup>7</sup>アウロラト露國公使館トノ必要交通等が常ニ本艦ト  
伊吹トニヨリ此ノ遺憾ナク其用ヲ辨シタリシハ余ク精銳ナル我  
無線電信機ト優秀ナル電信手ノ技能ノ効ニ外ナラサルヲ  
示シテヲ餘アリ

盤谷ニ於テハ時々兼負ニ上陸ヲ許シタリ一同ノ整肅ナル態度  
ト懇篤ナル舉措トハ能ク内外人ノ稱賛ヲ博シ特ニ暹羅  
國人一般ニ頗ル好感ヲ惹起セシメ日暹兩國今後ノ關係  
上ニ大裨益ヲ與タルハ深ク信ズル所ナリ

終リニ臨ミ經由各地在留ノ本邦人ヨリハ熱誠ナル歡待  
ヲ受ケタルコトヲ附記ス

0270

右報告ス

海軍

0271